

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 回相模原市文化振興審議会				
事務局 (担当課)		文化振興課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 2 (直通)				
開催日時		令和元年 5 月 2 4 日 (金) 1 4 時 0 0 分から 1 7 時 0 0 分まで				
開催場所		ウェルネスさがみはら B 館 2 階 集団検診室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	7 人 (市民局次長、文化振興課長、文化財保護課長他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 自己紹介 3 会長・副会長の選出 4 諮問 5 議題 (1) さがみはら文化振興プランの概要と取組経過について (2) 次期文化振興プランの策定に向けた市民意識調査及びヒアリング調査結果について (3) 次期さがみはら文化振興プランの策定に係る考え方について 6 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

市民局次長より設置目的等について説明を行った。また、事務局より金子委員、杉森委員及び戸塚委員の欠席について報告を行った。

2 自己紹介

3 会長・副会長の選出

相模原市文化振興審議会規則第3条の規定に基づき、互選により、会長に女子美術大学教授の大森氏、副会長に東京造形大学教授の中里氏が選出された。

4 諮問

市長に代わり市民局次長から、大森会長に対し、次期さがみはら文化振興プランについて諮問を行った。

5 議題

(1) さがみはら文化振興プランの概要と取組経過について

事務局から資料1に基づき説明を行った。

これまでの取組として、フォトシティさがみはらや藤野芸術の村メッセージ事業の開催支援とあるが、相模原芸術家協会の活動など絵画に関する取組が資料に出てこない理由は、

この資料は市が主体となり実施してきた取組を中心に事務局で抽出し、例として記載したものである。そのため、全ての取組が記載出来ていない点についてはご理解いただきたい。

文化活動や大学との連携という視点で見た場合に、ユニコムプラザさがみはらにおける取組は関連がないか。

ユニコムプラザさがみはらについては、市民と大学が連携して様々な分野に関する地域の課題解決や活性化を図るという施設の設置目的があり、文化の振興とは違った目的から設置をしている施設であるため、資料には記載していない。

今日は議題が3つに分かれており、次の議題にあるアンケート調査の結果等も含めて、次期文化振興プランの方向性まで全体を把握した後に関連性を踏まえて協議した方が良いと考える。

(2) 次期文化振興プランの策定に向けた市民意識調査及びヒアリング調査結果に

ついて

事務局から資料2及び3に基づき説明を行った。

資料2「平成30年度相模原市文化・芸術に関する市民意識調査結果概要」の23ページの設問だが、展覧会や美術展という項目が少なく、公民館まつりやあじさい大学など、沢山の事業が列記されているが展覧会に関しては収蔵美術品展だけである。その理由はなにか。

市が主体となり実施している主な事業の中で検討した結果、今回の設問になった。アンケート調査のページ数も鑑み、全ての事業を記載出来ていないため、ご理解をいただきたい。

今回のアンケート調査は、市が主催しているかしていないかの線引きをして実施したものと解釈し拝見しているが良いか。

おっしゃるとおりである。市が主催している事業がどの程度浸透しているものかをお聞きしたものである。今回の調査結果は次期プランの策定に向けて、実状を把握するため参考にとらせていただいたものである。

今回のアンケート結果は、今後公表される予定か。

市ホームページに公表するとともに次期プランの冊子の中でも、資料編としてアンケート結果を掲載していきたいと考えている。

相模原市は70万人を超える市民がいて、市域も合併により広域となったため、年齢別や居住別に分析した結果も併せて公表した方がよい。

年齢や居住区別に分析した結果についても、市ホームページで公表するよう対応していく。

実状を踏まえて考えた時に一番思うのは、情報が取れないで困っている人が多いことである。情報が多すぎるため、個々にあたらなければほしい情報が出てこない。そのため、市ホームページ以外に市の文化の情報を集積した媒体を作って発信した方がよいと考える。音楽と芸術などのジャンル別に検索ができると探しやすいため、これからはSNSの活用などそうした取組を進めていく方がよいのではないか。

アンケート調査から見えてきた部分として、文化への関心をお持ちの方は大勢いるが、情報が届いていないという実態が分かったので、広報や宣伝はしっかりと行っていく必要があると思う。SNSに力を入れて行くというのは、今の時代にあった形での情報発信の方法であるため効果的である。

若い世代は新聞を取っていない方が多いと思う。新聞を取っていないということは、新聞折り込みとして届く文化情報をまとめた情報誌Moveさえも届かないことになる。そのため、市役所などに行かなければ、そうした紙媒体を入手する手立てがないことになる。一方で、SNS利用は非常に高いと思うので、電子媒体での情報発信は必要だと考える。特に新たに若い世代を応援するなら、積極的に取り組んで

いただきたい。

S N Sなど電子媒体を活用した情報発信については、行政が苦手とする分野であり、積極的に活用してこなかったというのが実態である。ただ、現状を考えるとスマートフォンなどで知りたい情報を検索して、様々な予約や申請なども行える。そのため電子媒体の積極的な活用を図らなければならないものと認識をしている。現在、アトラボはしもとでは、F a c e b o o kを活用して事業実施のP Rに取り組んでおり、実験的、試行的に取り組み始めたところであるため、効果的な情報発信手法の検討を進めていきたいと考えている。

市民文化財団でもS N Sを活用した情報発信を行っている。ただ、インターネットはアクセスしないと必要とする情報が出てこないため、スマートフォンユーザーだとしても、検索をする中でヒットしなければならないというのは、実はかなり難しいと思う。検索しなくても直接情報が届くような方法があるといい。また、S N Sを使えない高齢の方々に情報を届けるとなると紙媒体も必要であり、行政は幅広く対応していかなければならないと思う。そうした中で、次期文化振興プランを作っていく時に大事な視点になるのは、行政が作るプランではあるものの、市の文化振興を図るには、行政と共に各団体や関係機関が役割を担って、一体となって取り組んでいくことが重要と考える。みんながチームになって、文化をもっと知ってもらって、若い人たちにも携わってもらおうという考えを持ったプランにしていかなければいけないと思う。また、協賛を求めながら情報を発信していくことも考えた方がいい。行政の取組以外にも様々な催しや取組がされていることも発信できれば、シティセールスにもなり良いと考える。

(3) 次期さがみはら文化振興プランの策定に係る考え方について 事務局から資料4に基づき説明を行った。

次期プランでは団体が行っている活動内容なども情報発信していくということか。それとも、市主催事業を中心に発信していくのか。

次期プランでは、協働の仕組みが非常に重要になってくると考えている。行政と市民、あるいは民間で活躍されている方々と連携・協働していくことについてもしっかり考えていく必要がある。そのため、事業のP Rについても市主催のものだけを周知するのではなく、市が後援している事業などについても、市ホームページに載せるなどし、積極的にP Rを行っていきたいと考えており、次期プランの中でもそうした方向性を盛り込んでいきたい。

これからは、大規模な事業だけでなく小規模な事業に関する情報も集めていただきたい。小規模な事業であっても、面白くわくわくするようなイベントや若者が集まっている団体が行っている特徴的な取組があったりと思う。そうしたものが次

なる文化を生んで来ると考えているが、情報を周知しづらい部分もあるのではないか。そうした部分も市はフォローしているよとなれば、市はしっかり文化について考えていることが若い人たちにも伝わり、信頼や期待が持てて面白いものが生まれる街というブランディングも築いていけるんじゃないかと思う。また、沢山の情報をどのように結び付けるかも重要な視点であり、音楽であろうが、絵画であろうが、写真であろうが、何でも一つのキーワードで検索ができるようにタグ付けして発信すると、利用しやすくなると思う。大変なことかも知れないが、少しずつでもやっていけたら良いのではないか。

- SNSの活用による情報発信は非常に重要だが、高齢の方は紙媒体の方が情報を入力しやすいと思う。また、情報発信の手法の一つとして、ラジオの活用もあるのではないか。今、ラジオを聴く人が増えており、スマートフォンでも聴けたり、聴き逃しサービスなどもあるため、汎用性があるんじゃないかと思っている。例えば、今度開催するコンサートの演奏者の紹介であったり、作家に出演してもらい絵画の作品について語ったりすることが可能であるならば、ラジオを活用した文化の発信も良いと思う。

ラジオで言えばFMさがみの中で、行政情報をこれまでも流してきたが、市が実施するイベントの告知が中心であり、ご提案いただいた作家に出演していただくような取組までは行ってこなかったことから、参考にさせていただく。

話は変わるが、現行のプランを作る際に文化活動をされている人たちのネットワークを作ることが話題となったが、その後どうなったか。個人情報絡みがあり難しい問題かとは思いますが、現在の進捗状況はいかがか。

アートラボはしもとなどで、若手アーティストの方々のネットワークの構築に取り組んでおり、少しずつ進めているところである。

そうした情報をもっと市民に知らせるため、発信していくべきである。

例えばプラットフォームづくりとして、何々バンクと銘打って、文化活動団体と学校などとをマッチングするような窓口を作り、その情報を市の広報などでお知らせしたりすればいいのではないか。

先ほど、アートラボはしもとの取組が紹介されていたが、その取組の一つにスーパーオープンスタジオと言うものがあり、全国的にも注目されている取組を行っている。市民とアーティストを結ぶ取組として、作品制作場所であるスタジオを巡るバスツアーなどを実施している活動にはなるが、アーティストがどういう職業なのかを理解し、その理解の中での教育的な波及効果などに繋がっていく特徴的な取組だと思う。また、ネットワークについてもコラボレーションというか掛け合わせをすることで、今までの我々が想定していた芸術、あるいは文化という枠を超えて、違う繋がりで何かを生み出せるということもあろうかと思う。そうした中で、優先度については、少し整理していく必要があると考える。

先ほどの作品制作を行っているスタジオなどは市民にあまり知られていないので、スタジオや美術系大学、アートスポットやホールなどの場所を記したアートマップのようなものを作り、何か若者に興味を持たせるような宣伝を行うのも良いのではないか。相模原市への愛着も生まれてくると思う。

違う視点かも知れないが商店会の活性化や空き店舗対策を行うにあたり、文化芸術を活用するのも有りだと考える。実際、空き店舗を無料で貸し出し、芸術を活用して商店会おこしを行っている事例もある。また、ロータリークラブやライオンズクラブのように社会貢献活動を行っている団体の力を借りて、協賛を得ていけば事業を実施する資金に充てることも出来るのではないか。

○先ほど話題となったネットワークづくりについてだが、人事異動があるため市がやるのは難しいのではないかと感じた。例えば、市民文化財団の方で対応していくという考えもあるのではないか。

○今後様々な事業を実施していくが、その一部を外注していくこともあり得るのではないか。

人事異動等で職員が代わってしまったとしても、今後8年間の方向性は変えずに取り組んでいくため、次期プランを策定するものである。また、委員のおっしゃるとおり一部事業については外注する中で、実施していく可能性もあると考える。

私たちのやるべきミッションは、ただプランを作るのではなく、次の計画期間の中で、現在抱えている様々な課題を連携や協働によって、解決するような構造を作っていく、あるいは何かを実施していくことではないかと考える。

○次回の審議会で次期プランにおいて、短期・中期・長期で行っていく取組は何かについて協議するのはいかがか。今日、市が次期プランの方向性で重点的に行いたい取組が示されたが、もう少し踏み込んで短期的に行う施策はなにか、継続的に持続的に行う施策はなにかなどを議論して、まとめていければ良いと思う。

賛成です。短期・中期・長期と明確には書けないかも知れないが、書きぶりが変わってくるという意味ですね。長期のものは検討するといういい方になるでしょうし、短期ものは実施していくという書き方になると思うので、そうした分け方を整理してするのは大事なことと考える。今回の会議では、協働の仕組みづくりという体制の形は、皆さんの共通理解を得られた部分だと思うので、そこは絶対進めていくということが整理できたと思う。

○一点伺いたいですが、国際交流の推進という視点は国の計画の中で新たな視点として加わってきたから次期プランにも加わったのか。国際交流という言葉だと、外国人の方を呼んだり、海外に行って何かすることをイメージしてしまう。

現行のプランでも触れられている視点であり、特色ある様々な文化事業など相模原市の魅力を国内外に発信していくというものが主なものとなるが、一部の公民館では国際交流ラウンジを通じて外国人と市民が文化交流を行っている実態もある。

障害のある人の活躍の場という言葉が出てきているが、現行のプランには明記されていなかった。どういった理由から今回明記がされたのか。

障害者による文化芸術活動の推進に関する法律の施行を受け、明記したものである。次期プランの計画期間で取り組む施策は、本審議会の議論の中で方向性を決めて、それに基づいて取り組んでいくという認識で良いか。

本審議会から答申をいただき、市が次期プランを策定することになる。次期プランは今後8年間の文化行政のバイブルとなり、各施策に取り組んでいくことになる。資料4に収蔵美術品の充実とあるが、美術品を受け入れた後にその作品をどうしていくかが大切な視点ではないか。ただ、倉庫に眠っていることが収蔵品の充実という点と、それは違うと思うので、積極的に公開し紹介していくことが大切だと思う。収蔵美術品については、現行のプランの中で充実していくことを目標に掲げていたが、絵画については収蔵が進んでおらず、現在、89点となっている。一方、写真については、フォトシティさがみはらの受賞作品を定期的に寄贈いただいていることなどもあり、現在約3,200点収蔵している状況にある。収蔵した作品については、収蔵美術品展を開催するなどし、多くの皆様にご覧いただく機会を設けていきたいと考えている。また、今後の美術館整備の具体化に向けて、どのようなテーマ性を持って収蔵をしていくのかという部分も含めて、今後ご議論をいただきたいと考えている。

○様々なご意見が出たが、各委員から出された意見を踏まえて、次回、次期プランの中身について事務局から提案をいただきたいと思う。

6 閉 会

以 上

相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	いわた 岩田 ゆず子	公募委員		出席
2	おおもり 大森 さとる 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
3	かねこ 金子 ともえ 朋沐枝	相模原市文化協会副会長		欠席
4	かみじょう 上 條 ようこ 陽子	相模原芸術家協会会長		出席
5	ささの 笹野 あきお 章央	公益財団法人相模原市民文化財団 常務理事		出席
6	しのざき 篠崎 しげお 重雄	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
7	すぎもり 杉森 じゅんこ 順子	桜美林大学芸術文化学群教授		欠席
8	すずき 鈴木 まさひこ 正彦	光と緑の美術館館長		出席
9	とつか 戸塚 あつお 厚生	相模原市文化財研究協議会会長		欠席
10	ともだ 友田 ゆきお 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
11	なかざと 中里 かずひと 和人	東京造形大学造形学部デザイン学科教授	副会長	出席
12	ひぐち 樋口 みきこ 美佐子	相模原音楽家連盟事務局長		出席
13	みつもと 三本 ひろこ 博子	公募委員		出席